

+ ほっほっほ

福井赤十字病院

理念 人道・博愛の精神のもとに、県民の求める優れた医療を提供します。

基本方針 ◎患者様の人権と意思を尊重し、相互理解に基づく医療を遂行します。

◎医療の質の向上に努め、良質な医療を提供します。

◎地域医療機関との連携を推進し、一貫した医療の提供に努めます。

特集 脳卒中

○脳梗塞

「あっ、右手の力が入らない」「左腕が挙がらない、立とうとすると左足でも踏んばれない」「物が二重に見える」



「めまいがして歩けない」「言葉が出ない」「言葉がうまくしゃべれない」「相手の言うことが理解できない」ある日、こんなことが起こったら、脳梗塞や脳出血かもしれません。ここでは脳梗塞についてお話をしましょう。

脳梗塞は脳の血管が詰まって起こる病気です。脳の血管そのものに動脈硬化などが起こり血液が通りにくくなって起こる場合と、心臓など他の場所にできた血栓（血の塊）がはがれて脳の血管を詰めてしまうことにより起こる場合があります。

脳梗塞は病歴と診察、CTやMRIなどの画像によって診断します。脳梗塞は後遺障害を少なくするため、なるべく早く治療することが大切ですが、CTやMRIの画像に、発症して間もなくはしばしば病変が写らないことがあるので、専門医による診察が非常に重要です。なかには発症後3～6時間以内に脳外科的に詰まっている血栓を溶かすことが有効な状況もあります。なるべく早くの受診をお願いします。

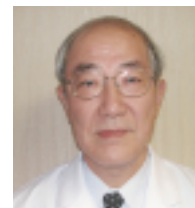
それでは、どういう人が脳梗塞になりやすいのでしょうか。喫煙、大量飲酒、塩分の多く脂



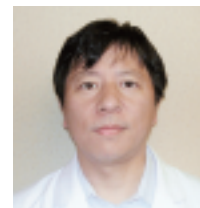
っこい食事、ストレスの多い生活は脳梗塞の危険因子です。予防としては、水分を補給しながらの適度な運動が有効です。こういった生活習慣と時には関連した高血圧、糖尿病、高コレステロール血症の管理は非

常に重要です。寝る前の水一杯、起きてすぐの水一杯

も意外に予防効果があるようです。「少～し気をつけて、長～く元気に」ができることの多い病気かもしれません。当院の内科、神経内科、脳神経外科がこの病気の予防、治療にお役に立てたらと願っています。



副院長兼脳神経外科部
第1部長 徳力康彦



神経内科
部長 近藤誉之

○くも膜下出血—動脈瘤の破裂

＊＊突然に頭の後ろが割れるようにいたくなった。ハンマーで殴られたようだった＊＊

頭痛の原因はいろいろあり、多くは緊急の対応は必要ありませんが、このように突然に起こる後頭部の激痛の場合には、脳の血管の枝別れに突出するこぶである動脈瘤の破裂による、くも膜下出血の頭痛を考え、緊急の検査が必要になります。

破裂の程度により、意識を失ってしまう場合もありますが、程度が軽いとそのまま日常生活を続けられる場合もあります。ただ、再び破裂する場合があります。泥沼にはまってしまいます。このような特徴的な頭痛の場合、すぐにCTをとれば、くも膜下出血かどうかは比較的簡単に診断ができます。大切なことは、早く診断をつけることです。

動脈瘤の破裂によるくも膜下出血であった場合には、再び破裂することを防ぐ必要があり、直接動脈瘤の根元をクリップで挟んでしまうクリッピング手術(図1)の他、最近では血管内手術も盛んに行われるようになっていきます。カテーテルを動脈瘤の根元まで誘導し、コイルなどでつめてしまう方法(図2)です。年齢、動脈瘤の場所、形、患者様の希望などで選択しています。

最近の統計では70人～100人に1人はこの動脈瘤が見られています。破裂する割合は年間1%で、毎年1万人に1人がくも膜下出血を起こすことになります。福井県の統計でも毎年70人～80人の方がくも膜下出血を起こしています。最近では、破裂する前の動脈瘤が発見される場合も多くなりました。破裂しないようにどのような予防対策をとるべきかについては現在全国レベルで調査研究が進行中で、その内容を理解していただいた上で治療の方針が決められています。



図1

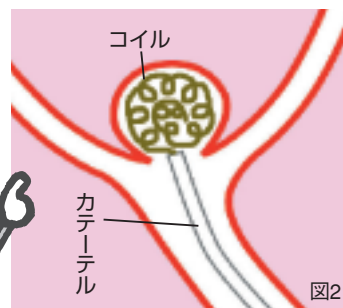
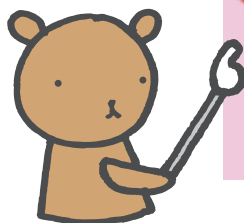


図2



○脳内出血

＊＊興奮して演説をしていたら、「うーっ」と唸って倒れてしまった＊＊

急に身体半分が動かなくなって、意識ももうろうとしてしまった。脳内出血は脳の表面に出血するくも膜下出血と違って脳の実質の中に出血するもので、頭痛はそれほど特徴的ではありませんが、身体半分の障害—半身麻痺が多く見られます。高血圧の方に多く見られるため、高血圧性脳出血ともいわれています。

くも膜下出血と違い出血した瞬間に脳の障害が始まるので、障害を最小限に食い止めるためには可能な限り早期に圧迫している血の固まりを除く必要があります。そのため、準備に時間のかかる全身麻酔ではなく、準備に時間のかからない局所麻酔で骨に小さな穴をあけて血の固まりを吸い出す定位脳手術が行われています。障害が軽い場合にはそのまま薬物治療で経過を見ることもあります。障害が余りにも大きな場合には、救命を目的として全身麻酔下の開頭手術を行いますが限られた場合のみです。

脳梗塞と違って再発することは少ないので、精力的なリハビリテーションで回復に望みをかけることが大切です。高血圧の管理を行うと同じに、特に出血による脳の障害が始まってから、なるべく早い時期からリハビリテーションを始める必要があります。



部門紹介 医事課

医事課長 加戸正人



医事課は、大きく外来係、入院係、医事係の3つの係に分かれています。外来係は、患者様が外来受診される際の各診療科の窓口業務や診療計算を行い、日頃患者様と接する機会が多いセクションです。入院係は、患者様と直接お話する機会は少ないと思いますが、当院にご入院された時からご退院までの入院費の請求書作成などを担当しています。また、医事係は患者様の外来通院費や入院費のお支払についてのお問い合わせ、交通事故や労災等による診療のお支払いについてや、社会保険・国民保険等の外部機関との連絡調整など、幅広い内容を取り扱っています。ご質問等がありましたら遠慮なくお声をかけてください。出来るだけわかりやすくお答えできるよう努めてまいります。

普段なじみの少ない部署かもしれませんが、患者様の求める良質な医療に少しでも貢献できるよう医療事務の立場からサポートしていきたいと思います。

トピックス

みんなで歌おう X'masコンサート

平成15年12月18日(木)に当院栄養管理棟3階講堂において、患者様に安らかなひとときを過ごしていただき、明るく元気な気持ちになっていただこうと、仁愛女子高合唱部の皆さんによるコンサートが開かれました。

当日は、合唱部の皆さんがリズムカルにダンスなどの振り付けをしながらクリスマスソングを披露すると、会場に集まった患者様は、一緒に歌を口ずさんだり手拍子をするなど、会場全体が一体となった楽しいコンサートになりました。また、コンサートの最後には、患者様から合唱部の皆さんへ感謝の言葉とともに花束が贈られ、患者様の顔が笑顔でほころんでいました。



会場風景

キャンドルサービスが行われました



サンタさんも
飛び入りで参加！

平成15年12月24日(水)のクリスマスイブの夜、当院の看護師及び看護学生によるキャンドルサービスが行われました。

看護師たちは、それぞれが手にしたキャンドルに火を灯し、入院患者様の一日も早い回復と心が安らぐことを願い「聖しこの夜」や「もろびとこぞりて」、そして以前入院されていた方が作詞作曲され、当院へ贈られた「神よ人々を苦より救ひたまへ」などを歌いながら、各病棟を訪問しました。

病棟では、このキャンドルサービスを心待ちにしていた患者様から感嘆の声が聞かれ、和やかな雰囲気に包まれたクリスマスイブとなりました。



火を灯したキャンドルを手に
看護師が合唱。

行事予定

●家庭看護法介助員養成講習(4日間)

日時&内容：2月 7日(土)「自立を目指して・身体の移動・車椅子での移動」
：2月14日(土)「衣服の着脱の介助・食事の介助・身体の拭き方」
：2月21日(土)「洗髪・便器、尿器の使い方・オムツのあて方」
：2月28日(土)「痴呆性老人の理解」 9:00~15:30

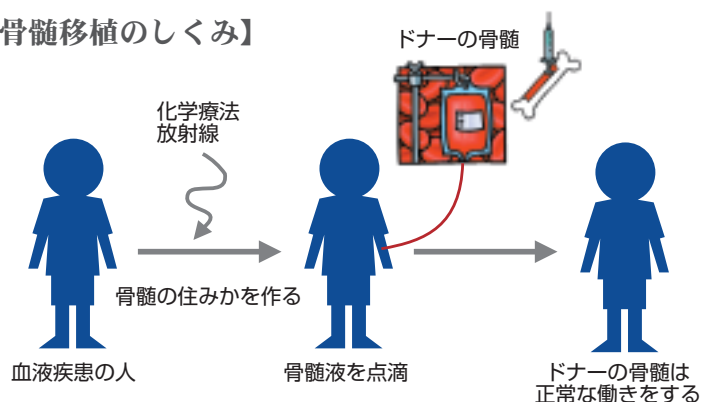
会 場：日本赤十字社福井県支部3階大会議室

参 加 費 用：1,000円(お申し込みは、医療社会事業部または看護部まで)

「骨髄移植って何だろう？」 内科部 第6部長 今村 信



【骨髄移植のしくみ】



今、テレビで女優の夏目雅子さんが出ているCMをみなさんはよく目にされているのではないのでしょうか。あのCMは骨髄バンクへのドナー登録をお願いしているものです。骨髄バンクは血縁の方にドナー（骨髄の提供者）が見つからない患者様が「骨髄移植」を受けられるように多くのボランティアの方々の協力を呼びかけています。

「骨髄移植」という言葉はよく聞いていますが、では実際にはどんな患者様が骨髄移植を必要とし、骨髄移植はどのように行われているのでしょうか。骨髄移植とは、文字通り「骨髄」を「移植」することで、つまり骨髄が正常な働き（白血球・赤血球・血小板を造る）ができないような病気の患者様に行われる治療です。再生不良性貧血や白血病などの病気では通常の治療で治る患者様と、通常の治療では治りにくい患者様がいます。治りにくい患者様にとっては骨髄移植が治癒をめざす大切な治療となります。そこで正常な造血が行われなくなってしまった患者様の骨髄幹細胞（白血球・赤血球・血小板を作り出す元になる細胞）を、健康な方の骨髄幹細胞と入れ替える（実際は骨髄液を輸血のように点滴することにより、造血機能を回復させる治療法が骨髄移植です）。

移植される骨髄は提供者（ドナー）の骨盤の骨の背中側から全身麻酔下に取り出します。患者様はあらかじめその骨髄が自分の骨髄として働くための場所を作るために、移植を受ける前に前処置と呼ばれる大量化学療法（抗癌剤や放射線照射あるいは免疫抑制剤）を受けています。そして採取された骨髄は輸血と同様に点滴で患者様に移植されます。患者様は移植された骨髄が正常な働きを始めるまで無菌室で生活します（通常2～3週間）。骨髄が回復した後も患者様は様々な感染症や移植片対宿主病（GVHD）などの合併症を克服しなければなりません。しかしこれらを乗り越えた後には社会復帰（職場復帰）が可能となります。

福井赤十字病院の新本館では骨髄移植を行うための無菌室が設けられています。現在、スタッフも骨髄移植にむけて着々と準備を進めています。骨髄移植に関してご質問などありましたらご相談ください。

お知らせ ～新本館移転の予定～

2月21日（土）	竣工式
2月24日（火）・25日（水）	内覧会
2月28日（土）～3月1日（月）	外来移転*
3月2日（火）	外来稼働開始
3月6日（土）・7日（日）	病棟移転
3月8日（月）	病棟稼働開始

*外来移転の際には、検査や治療に使用しております医療器械の移設・調整のため、通常どおりの診療を行うことができません。そのため、患者様にご迷惑をおかけいたしますが、**3月1日（月）は休診**とさせていただきますので、なにとぞご了承ください。



新本館 1階エントランスホール

編集後記

例年よりはいくらか寒さも穏やかな今年ですが、皆さん、風邪やインフルエンザにかかってはいないでしょうか？空気が乾燥するこの時期、うがいや手洗いをして予防に努めましょう。

さて、いよいよ3月からは、待ちに待った新本館開院となります。電子カルテなど、新しいシステムで患者様を受け入れることとなりますが、誠心誠意がんばらせていただきますので、よろしく願いします。（広報委員T.I.）

「ほやほや」第7号 2004.1発行 広報委員会

〒918-8501 福井市月見2丁目4番1号
TEL.0776-36-3630 (代) FAX.0776-36-4133
URL: <http://www.fukui-med.jrc.or.jp/>
E-mail: webmaster@fukui-med.jrc.or.jp